

2008年4月24日

プレスリリース

本資料は4月24日にチュ
ーリッヒで発表されたプレ
スリリースの翻訳版です

**クレディ・スイス・グループ
2008年第1四半期業績を発表
21億スイス・フラン (CHF) の純損失**

**2008年第1四半期にレバレッジド・ファイナンスおよびストラクチャード商品の正味評価損
53億CHFを計上**

**2008年第1四半期にリスク・エクスポージャーの大幅引下げを継続：レバレッジド・ファイ
ナンスにおけるリスク・エクスポージャーは41%減、商業用モーゲージにおけるリスク・エ
クスポージャーは25%減**

**クレジット市場問題の影響を直接受けた分野を除き、大半の業務は2008年第1四半期も好調
で、営業収益は前年同期並みかそれを上回る**

**プライベート・バンキング部門は着実に資産を獲得：2008年第1半期の新規純資産171億
CHF (ウェルス・マネジメントの135億CHFを含む)**

2008年第1四半期末現在のバーゼル II BIS第1分類資本比率は9.8%と引き続き健全

クレディ・スイス・グループは、本日、2008年第1四半期業績を発表しました。それによ
ると、2008年第1四半期の損益は21億4,800万CHFの純損失となりました（前年同期は27億
2,900万CHFの純利益）。2008年第1四半期中核事業ベースの純営業収益は30億1,900万
CHFで、前年同期比72%減となりました。

クレディ・スイス・グループ最高経営責任者（CEO）のブレイディ・ドゥーガンは次のように
述べています。「2008年第1四半期の業績は明らかに満足できるものではありません。しか
し、当四半期中は影響を受けた分野へのエクスポージャーを大幅に引下げており、今後も厳格
なルールに基づいてこれを継続します。クレジット市場問題の影響を直接受けた分野を除くと、
当社の事業のほとんどは好調で、営業収益も前年同期の実績にほぼ近いが、それを上回って
おり、当社のグローバルに多様化した事業戦略の恩恵を受けていることを示しています。グロー
バルでのウェルス・マネジメントおよびスイス・コーポレート&リテール・バンキング事業は
ともに力強い成長を持続し、着実に資産獲得を拡大しました。インベストメント・バンキング
部門では、レバレッジド・ファイナンスとストラクチャード商品を除くほとんどの事業が堅調
な業績を上げました」。

「クレディ・スイスは極めて困難な市場状況の中で、引き続きこれにうまく対応しています。当社の資本状況は健全で、今後も引き続き保守的な資金管理と効率的なコスト管理を行ってまいります。我々は、不確実で変動の激しい市場環境においても引き続き顧客の安全な避難所となり、市場混乱期に生じるビジネス機会をうまく活かして長期的な価値を創出できると確信しています」（ドゥーガン）。

決算ハイライト

単位：百万 CHF	2008年 第1四半期	2007年 第4四半期	2007年 第1四半期	2007年第4 四半期からの 増減率（%）	2007年第1 四半期からの 増減率（%）
当期純利益（純損失）	(2,148)	540	2,729	-	-
継続事業からの1株当たり希釈化純利益 （CHF）	(2.10)	0.49	2.42	-	-
自己資本収益率	(20.8)%	5.1%	25.2%	-	-
バーゼルII BIS 第1分類資本比率（当 期末）	9.8%	10.0% ¹⁾	- ¹⁾	-	-
中核事業²⁾ 純営業収益	3,019	6,561	10,669	(54)	(72)
貸倒引当金繰入額	151	203	53	(26)	185
総営業費用	5,440	6,155	7,040	(12)	(23)
税引前利益（損失）	(2,572)	203	3,576	-	-

¹⁾ バーゼルI BIS 第1分類資本比率は2007年第4四半期末現在で11.1%、2007年第1四半期末現在で13.2%

²⁾ 中核事業は3事業部門とコーポレート・センターの業務を含む。ただし、大きな経済的利益を有しない少数株主持分に関する収益と費用を除く。

部門別業績

プライベート・バンキング部門

ウェルス・マネジメントとコーポレート&リテール・バンキングからなるプライベート・バンキング部門の2008年第1四半期の税引前利益は13億2,400万CHF、前年同期比8%減でした。

ウェルス・マネジメントの2008年第1四半期の税引前利益は8億6,000万CHFで、前年同期比13%減でした。2008年第1四半期の純営業収益は23億1,300万CHF、前年同期比3%減でしたが、これは経常営業収益が回復したものの、取引ベースの営業収益の減少によって相殺されたためです。総営業費用は前年同期比4%増で、これは主に国際事業の拡大にかかる費用によるものです。2008年第1四半期の税引前利益マージンは37.2%（前年同期は41.5%）でした。

コーポレート&リテール・バンキングの2008年第1四半期の税引前利益は4億6,400万CHFで、前年同期比3%増でした。純営業収益は好調に推移し、前年同期比6%増となりましたが、これは正味利息収入が若干増加し、また利息以外収入の合計額が前年同期比11%増となったためです。貸倒引当金の正味取り崩し額は900万CHFで、前年同期と同水準でした。総営業費用は前年同期比8%増で、これは主に信用供与関連以外の引当金等の増加によるもので、前年同期の正味取り崩し分を反映しています。2008年第1四半期の税引前利益マージンは44.5%でした（前年同期は45.7%）。

インベストメント・バンキング部門

インベストメント・バンキング部門は、2008年第1四半期に34億6,000万CHFの税引前損失を計上しました（2007年第1四半期は19億9,000万CHFの利益）。これは2008年の極めて厳しい市場環境を反映したものです。2008年第1四半期の純営業収益はマイナス4億8,900万CHFで（前年同期は65億8,200万CHFを計上）、この減収の大半はモーゲージ市場とクレジット市場の混乱が債券業務にもたらした影響によるものです。2008年第1四半期の業績は、レバレッジド・ファイナンスとストラクチャード商品業務の正味評価損により債券トレーディングが前年同期と比較して大幅な減収となったため、マイナスの影響を受けました。

レバレッジド・ファイナンスとストラクチャード商品を除くと、ほとんどの業務が好調な業績を上げており、現在当社が取り組んでいる収益源多様化の重要性を示しました。債券トレーディングについては、グローバルでの金利および外国為替業務が過去最高に近い業績を達成し、エマージング市場業務も好調な業績を達成しました。株式トレーディングの業績は、好調だった前年同期に比べて下がりました。これは主に株式自己売買および転換社債業務の不振によるものですが、その一部はプライム・サービス業務の過去最高の業績とグローバル・キャッシュ業務の良好な業績によって相殺されました。債券と株式トレーディング業務は、クレディ・スイス社債の信用スプレッド拡大によって生じた時価評価益13億6,200万CHFからの利益を得ました。引受およびアドバイザリー業務は、市場活動の低下にともない、前年同期に比べ減収となりました。総営業費用は前年同期比38%減で、これは主に業績不振を反映して従業員報酬および各種手当の給付額が減少したためです。

インベストメント・バンキング部門における正味評価損とエクスポージャー

2008年第1四半期の純営業利益は、レバレッジド・ファイナンスとストラクチャード商品業務における正味評価損52億8,100万CHFを反映しています。この額には、2008年3月20日に発表されたインベストメント・バンキング部門の債務担保証券（CDO）トレーディング業務における一部の資産担保証券の保有分の評価額改定が反映されています。下表はクレディ・スイスの2008年第1四半期および2007年通年の正味評価損額を示しています。

正味評価損

（単位：百万CHF）	2008年第1四半期	2007年通年
レバレッジド・ファイナンス	1,681	835
商業用モーゲージ担保証券（CMBS）	848	554
住宅用モーゲージ担保証券（RMBS）	96	513
債務担保証券（CDO）	2,656	1,285
評価損額合計	5,281	3,187

クレディ・スイスは、下の表に示す通り、2008年第1四半期におけるインベストメント・バンキング部門のエクスポージャーを2007年末からさらに引下げました。レバレッジド・ファイナンスへの総エクスポージャーは2007年第4四半期末比41%減、2007年第3四半期末比65%減となりました。商業用モーゲージにおける総エクスポージャーは2007年第4四半期末比25%減、2007年第3四半期末比46%減となりました。

エクスポージャー

(単位：十億 CHF)	2008年第1 四半期末	2007年第4 四半期末	2007年第3 四半期末	2007年第4 四半期末比 増減率 (%)	2007年第3 四半期末比 増減率 (%)
レバレッジド・ファイナンス	20.8	35.1	59.2	(41)	(65)
商業用モーゲージ	19.3	25.9	35.9	(25)	(46)
住宅用モーゲージ	5.5	8.7	16.2	(37)	(66)
CDO米国サブプライム	0.7	1.6	2.3	(56)	(70)

アセット・マネジメント部門

アセット・マネジメント部門の2008年第1四半期の損益は4億6,800万CHFの税引前損失でした（前年同期は2億5,700万CHFの利益）。この減益は主に、当社のマネー・マーケット・ファンドが取得した有価証券が5億6,600万CHFの正味評価損を計上したこと、およびプライベート・エクイティ、その他の投資関連商品の大幅な減益によるものです。純営業収益は6,300万CHFで前年同期比92%減でした。上記評価損計上前の当四半期の純営業収益は、前年同期を19%下回り、6億2,900万CHFでした。総営業費用は前年同期比2%増でした。上記評価損計上前の2008年第1四半期の税引前利益マージンは15.6%でした（前年同期は33.1%）。

当社のマネー・マーケット・ファンドが取得した有価証券の当社貸借対照表上の時価は2008年第1四半期末現在22億CHFで、2007年末から17億CHF減少しました。この額には2008年第1四半期に取得した2億3,200万CHFが含まれています。

部門別業績

(単位：百万 CHF)		2008年 第1四半期	2007年 第4四半期	2007年 第1四半期	2007年第4 四半期からの 増減率 (%)	2007年第1 四半期からの 増減率 (%)
プライベート・ バンキング	純営業収益	3,355	3,478	3,366	(4)	0
	貸倒引当金繰入額	(5)	(6)	(7)	(17)	(29)
	総営業費用	2,036	2,107	1,934	(3)	5
	税引前利益	1,324	1,377	1,439	(4)	(8)
インベストメント・ バンキング	純営業収益	(489)	2,741	6,582	-	-
	貸倒引当金繰入額	156	210	61	(26)	156
	総営業費用	2,815	3,380	4,531	(17)	(38)
	税引前利益（損失）	(3,460)	(849)	1,990	308	-
アセット・ マネジメント	純営業収益	63	354	776	(82)	(92)
	貸倒引当金繰入額	0	(1)	0	-	-
	総営業費用	531	602	519	(12)	2
	税引前利益（損失）	(468)	(247)	257	89	-

新規純資産

ウェルス・マネジメントが2008年第1四半期に獲得した新規純資産は135億CHFで、四半期平均成長率換算ベースで6.0%に相当します。これは主にスイスおよび米州地域各市場での強力な貢献によるものです。アセット・マネジメントの2008年第1四半期の新規純資産は202億CHFの正味資産流出となりましたが、これは主にスイス機関投資家向けアドバイザリー業務およびマネーマーケット資産を含む、グローバル投資戦略からの資産流出によるものです。アセット・マネジメントのオルタナティブ投資の新規純資産は22億CHFでした。グループ全体の運用資産総額は2008年3月31日現在1兆3,805億CHFで、2007年3月31日現在の実績を11.0%下回りました。これは外国為替および市場動向が不利に作用したためです。

統合ビジネスモデルの利点

2008 年第 1 四半期に、部門横断的な協調体制を通じて、中核事業業績ベースでおよそ 12 億 CHF の営業収益を上げることができました。

健全な資本基盤

バーゼル II の導入後もクレディ・スイス・グループの資本基盤は引き続き健全で、2008 年 3 月 31 日現在の BIS 第 1 分類資本比率は 9.8%でした。

本件に関するお問い合わせ先

コーポレート・コミュニケーションズ

梶野 勇

Tel 03 4550 9893

Email isamu.kajino@credit-suisse.com

クレディ・スイスについて

クレディ・スイスは、世界有数の銀行として、プライベート・バンキング、インベストメント・バンキング、アセット・マネジメント事業を世界中で展開しています。クレディ・スイスは、アドバイザー・サービス、包括的なソリューション、革新的な商品を、世界中の法人および富裕層個人顧客、またスイス国内の一般個人顧客に提供しています。クレディ・スイスは、世界 50 ヶ国以上に拠点をもち、約 49,000 人の従業員を有しています。親会社クレディ・スイス・グループは、チューリッヒに拠点を置く、世界有数のファイナンシャル・サービス・カンパニーです。クレディ・スイス・グループの株式 (CSGN) はスイスで上場され、米国預託証券 (CS) としてニューヨークでも上場しています。

予測情報に関する注意事項

本プレス・リリースには予測情報に該当する記述が含まれています。さらに、将来、当社および当社に代わって他の者が予測情報に該当する内容の声明をおこなう場合があります。かかる予測情報には当社の計画、目的もしくは目標に関する声明、当社の将来的な業績もしくは見通し、一定の偶発事由による当社の業績に対する潜在的な影響およびかかる声明の基礎となる前提事項などが含まれます。「信じている」、「期待している」、「予期している」、「企図している」、「計画している」およびこれらに類似の表現は予測情報であることを示すために使用していますが、予測情報かどうかを見分ける決定的な要因ではありません。適用される法律により要求される場合を除き、当社は特にこれらの予測情報を更新することは予定していません。予測情報の性質上、予測情報には一般的または具体的な固有のリスクや不確定要因が伴い、予想、予測、見通しおよび予測情報に記載もしくは暗示されたその他の結果が達成されないリスクが存在します。いくつかの重要な要因によって、実際の結果が予測情報に含まれる計画、目的、予想、予測および企図と大幅に異なる場合があります。これらの要因には以下のものが含まれます。(i) 市況および金利の変動、(ii) 一般的には世界的な経済力、および特に当社が業務をおこなう国の経済力、(iii) 相手方の当社に対する義務履行能力、(iv) 会計、金融、貿易および税務の方針の影響およびこれらの方針の変更ならびに為替変動、(v) 戦争、社会不安、およびテロなどの政治的、社会的情勢、(vi) 当社が業務をおこなう国における外国為替管理、公用徴収、国有化もしくは資産の没収、(vii) 十分な流動性を維持し、資本市場に参入する能力、(viii) システム故障、人的エラー、もしくは手続の適正な処理不能等の業務運営上の要因、(ix) 当社が業務をおこなう国における、規制当局による当社の事業および活動に対する措置、(x) 法律、規制および会計原則もしくは実務の変更による影響、(xi) 当社が業務をおこなう地理的な地域および営業地域における競争、(xii) 有能な人材を保有し、採用する能力、(xiii) 当社の評判を維持し、ブランドを促進する能力、(xiv) 市場を拡大し、費用を管理する能力、(xv) 技術の変化、(xvi) 当社の新商品および新サービスの適時の開発および導入、ならびに顧客による当該新商品および新サービスの認識された全体的な評価、(xvii) 買収、および買収後の事業統合を成功させる能力、(xviii) 訴訟およびその他の偶発事由による不利な結果、および (xix) 当社の上記リスクに関する管理能力。上記の重要な要因のリストはすべての要因を列挙したものではありません。予測情報を分析する場合、上記の要因およびその他の不確定要因および事由を注意深く検討すると共に、米国証券取引委員会に提出された当社の直近のフォーム 20-F およびフォーム 6-K に記載されたリスクをも検討して下さい。